



●医療法人社団 宝樹みやの会

人工透析センター宮野病院

所在地 丸亀市今津町 19 番地 1

業種 医療業

事業概要 病院、人工透析センター、サービス付き高齢者向け住宅の経営、訪問介護事業所の経営など

従業員数 134 人（男性 32 人、女性 102 人）

育児休業取得期間 R2 年 11 月～12 月に
16 日間取得

【今回のインタビューは、事務長にお話を伺いました】

○制度を知り、利用しようと思ったきっかけは

当院では、現在6名の女性従業員が育休中(女性は平均1年くらい取得)である。今回の男性従業員は2人目の子ども(妻も従業員で現在育休中)であり、何か病院として助けになればと思い情報を集めていたところ、男性育休を応援するという厚生労働省のHPを見つけた。丸亀市でも何かないかと検索したところ、この制度を知り、私から本人に話した。本人は、男性も育休を取れると思っていたようで驚いていた。女性従業員は毎年コンスタントに数名が育休を取得しているので、まわりの理解はあったが、男性育休の取得は当院では初めてなので、ほかの従業員も少し戸惑っているようだった。

○事務長から提案したということだが、育休中の職場体制に不安はなかったか

全国的に男性育休取得率はとても低いというニュースを知っていたので「今後は積極的に取るべき。これからは取れるような環境整備をしていかなければならない。それは企業の責任だ」と考えた。今回取得した従業員は、臨床工学技士(ME)であり、主に透析維持装置のメンテナンスなど医療機器の保守・点検・管理を行う仕事である。妻も偶然同じ職場で同じ仕事だった。MEを5年前から積極的に採用しており、ようやく在籍10名となった。余裕はないが、2人休んでもまわりの8人の理解があればなんとかまわる状態だったので、取得してもらうことができた。うれしい誤算もある。それは今回の育休取得期間中の人数減に対応するため、装置の点検や申し送り方法など業務内容を一から見直した結果、点検回数を減らすことなく精度を高め、結果的にこれまでより業務の効率化が図れた。また、職員同士のコミュニケーションの向上にもつながった。

○今回、育児休業を取得した従業員の感想、まわりの変化など

今回の育休は、保育園への送り迎えなど上の子どものメインで見るために取得したが、これまでより子どもと過ごす時間が増え、子育ての大変さを改めて感じたと話していた。まわりの従業員も育休の取得をきっかけとして業務効率が上がったと思う。今は彼も復帰して8人から9人体制になったので、今まで以上に患者様へのサービスがアップした。



○（小学校就学前までの子を養育する場合）短時間勤務の時間が選べるように変更したとのことだが、利用はあったか

利用はない。というのは、当院はほとんど残業がない。たとえば 17 時 30 分までの勤務ならばほぼ定刻で業務は終了できる状態である。希望休の取得も 3 日までとしているが、可能な限り希望に沿うように対応している。育休から復帰するときも短時間ではなく、普通勤務で戻る人がほとんどである。時間よりも夜勤・土日勤務の免除があることや給与面にメリットがあると思われている。まわりの子育て経験者が支えていることも大きい。

○この奨励金制度をもっと利用していただくための改善点は

各企業も毎年、新入社員の研修などの際に、この制度の周知をしてはどうか。今後の育休取得を考えたときに、様々な手当や制度があるということを知っておけば、育休取得のハードルが下がるのではないかと。今回取得した従業員も「無給になるのは怖かったが、思ったより手当があった」と言っていた。

また本人から言い出すのはハードルが高いと思うので、上司や人事部門から声をかけるのが大事だと思う。権利なので、ぜひ遠慮なく取得してほしい。産後は大変な時期なので、経験者がいれば一緒に対象の従業員に話すのもいいと思う。

○ワーク・ライフ・バランス推進、働きやすい職場環境づくりのために行政からどのような支援があったらいいと思うか

せっかく HP に奨励金の体験談を掲載していても、知られていない。私も今回のことで初めて見た。読んだら「なるほど」と思うので、もっと目につきやすいよう積極的にアピールしてほしい。また体験談にあるようないいことばかりではなく、育休に関するハラスメントや出世、転勤へのリスクを心配し、取得をためらう人もいると思うので、デメリットに対する策も提示するようなアプローチも必要ではないか。

最後に働きやすい職場環境づくりは企業側の責任だが、従業員側にもそれなりの責任がある。まわりの従業員の協力なしではできないことなので、早めに伝える、引継ぎをしっかりとするなど、権利を主張するだけでなく、周りへの配慮や日ごろからのコミュニケーションも大切だと思う。

（取材を終えての感想）

事務長から育休を提案したこと、子育て経験者が子育て中の職員を支えていることなど、従業員も病院側もお互いに支え合って、働きやすい職場につながっていると感じました。今回育休を取得された従業員の方が今後は子育ての先輩の立場としてまた次の世代を支え、男性育休取得が当たり前となることを期待しています。これからは男性も積極的に育休を取っていくべき、そのための環境整備は企業の責任だという思いを、市内全体にぜひ広げていきたいと思えます。